

[ライブ・サーティ]

Live30

<https://www.omichikai.or.jp>

VOL.

233

2019年
秋号



CLOSE UP

医療と介護、病院と在宅、地域との架け橋になります

森之宮病院に「地域包括ケア病棟」を開設

OMICHI ACADEMY

第13回 国際リハビリテーション医学会世界会議

第9回 日本ボバース研究会学術大会

第19回 大阪介護老人保健施設協会懇話会

OMICHI SCRAMBLE

入職医師・歯科医師のご紹介

脳卒中教室を月に2回開催しています

第5回脳性麻痺治療セミナーを開催しました

INFORMATION

森之宮病院で下肢静脈瘤治療が始まりました

ボバース記念病院のホスピタルアートが完成しました



最優秀賞
「Live30」
施設は常に最新医療について
最も優秀であったことと評価し、
日本トップを誇ります
日本最優秀賞

森之宮病院に「地域包括ケア病棟」を開設



地域包括ケア病棟とは

7月から森之宮病院3階に地域包括ケア病棟を開設しました。

地域包括ケア病棟とは、急性期治療を終了後、すぐに在宅や施設に移行することに不安のある患者さんに対し、在宅復帰に向けた医療管理や診療、看護、リハビリ、介護サービスの調整等を行うことを目的とした病棟です。また、在宅療養中の患者さん入院が必要となった際、在宅医から依頼を受けて支援する病棟です。



3階トイレ：広いトイレで動作練習

当院では昨年8月からワーキンググループを立ち上げ、患者さんにとってより良い病棟になるよう、医師・看護師・セラピスト・薬剤師・栄養士・MSW等、多職種で話し合い、開設に向けて準備を進めてきました。昨年12月末には、登録医や地域のケアマネジャー、介護保険関連施設の方々にお集まり頂き、

地域包括ケア病棟での生活

地域包括ケア病棟に入院する時は看護師・セラピスト・MSWが入院前在宅・急性期の生活状況を確認し、病棟生活のケアプラン、退院支援への計画へつなげていきます。病棟でのリハビリテーション以外に午前にはセラピス



内覧会：地域の先生方に病棟とリハビリテーション室を案内

内覧会を開催しました。そして今年1月からいったん、一般病棟としてオープンし、運用を徐々に開始し準備をしてきました。地域包括ケア病棟をご利用頂き、患者さんが元気でご自宅に戻り、地域で暮らしていけるように、院内はもちろん法人内、また地域の他の医療・介護の方々との連携を図りながら、患者さんの在宅復帰のサポートを行っていきます。

（森之宮病院診療部地域医療連携室副部長 杉浦美保）

トによる集団リハビリテーション、午後からは介護福祉士による集団レクリエーションがあり、日常生活にリズムをつけ、退院に向けて介入しています。また、入浴やリハビリテーションのない時間帯は、看護師と介護福祉士が協力して自主訓練を積極的に実施し、時には自慢のベランダで季節の花や野菜をスタッフとともに育て、心もイキイキして頂いています。

退院

最大60日まで

スムーズな在宅生活を
過ごして頂くように
引き継ぎをします

個別・集団リハビリや
院内デイサービス等

退院に
向けての
話し合い

リハビリ
介護指導

・歯科
・栄養指導
・服薬指導

日常生活
動作確認

入院生活が円滑に
過ごせるように
日常生活動作を
確認します

入院から退院までの流れ

入院

ご自宅での状況を
お聞かせ下さい



3階病棟ベランダ:季節の花や野菜の手入れ

地域包括ケア病棟では患者さんが常に「暮らしの場」に戻ることを意識し、在宅復帰に向けてリハビリテーションや退院支援を行います。
(森之宮病院看護部3階病棟科長 舘川靖子)

地域につながるリハビリテーション

自宅退院をめざすケースに対しては、積極的に退院前訪問指導を実施しています。城東区・東成区にお住まいの患者さんを中心に、ご自宅を訪問し、日常生活動作の安全性の確認、主たる介護者(家族や介護士)への介助指導、手すりや福祉用具の利用の検討、生活のリズムを考えたサービス内容の検討をケアマネジャー等と情報共有を行っています。



退院前訪問指導:安全に行える導線や動作の確認

老々介護も多く、患者さんの環境設定だけではなく、ご家族の生活状態も踏まえてADLを設定し、介助方法・サービス内容を検討しています。

また、メンテナンスケア入院患者の家族介護に対する身体的・精神的負担を把握し、サービス内容の再検討だけでなく、施設相談を含めて無理のない生活スタイルを検討し提案することを中心としています。

高齢の独居生活の患者さんへの在宅復帰においては、ウォールポケットでの服薬管理や配食サービスの利用を勧めるだけでなく、閉じこもり予防に向けて知人との通所デイサービス等の社会参加につなげられるように、入院中のグループリハを通して友達作りやレクリエーション等の社会参加を早期から促しています。

施設に入所されるケースでは、できる限りご自分でできることを増やして頂き、介護負担の軽減に努め、トイレ動作や食事動作、入浴動作の介助方法をお伝えし、自発的な活動を縮小しない

ような工夫についての情報共有や、認知症に対する対応方法を情報共有し、退院後の環境変化による周辺症状の悪化を減らすように工夫しています。
(森之宮病院リハビリテーション部理学療法科科长 永井千尋)



3階リハビリ室:退院に向けた個別リハビリテーション

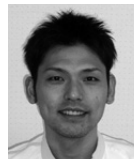
チーム医療での切れ目ない 医療・介護の提供

退院前カンファレンスを可能な限り行い、当院の医師・看護師・セラピスト・MSWと、かかりつけ医・訪問看護ステーションの看護師・セラピスト・介護士・福祉用具会社・ケアマネジャーあるいは施設のスタッフと実施し、情報共有を行っています。

「時々入院ほぼ在宅」が無理なく安全に実施できる方法を考え、また当病棟が地域の方々の支えになれるよう尽力したいと考えています。
(森之宮病院リハビリテーション部理学療法科科长 永井千尋)

活動報告

第13回 国際リハビリテーション医学会世界会議



森之宮病院
リハビリテーション部
作業療法科主任
神尾 昭宏

開発中の上肢ロボットを展示、研究活動の重要性を再認識した

日程：2019年6月11日～13日
場所：神戸コンベンションセンター

今回参加した第13回国際リハビリテーション医学会世界会議は、世界中のリハビリテーション関係者に、基礎研究、臨床経験、科学技術、健康政策、リハビリテーション医学理念について、その成果と発展を広く提供するという基本的使命を果たすことを目的に行われています。世界各国から多くの関係者が参加し、様々な言語が飛び交っていたことが印象的でした。私はATRとの共同研究（NICT委託「脳機能補完による高齢者・障がい者の機能回復支援技術の研究開発」）において開発中の上肢ロボットの展示ブースで、参加者への対応、実際に装着して頂いた使用感の確認等を行うスタッフとして参加しました。現在開発中の上肢ロボットは麻痺の重症度に合わせてアシスト量を調整し、過剰な努力を伴わずに最適な上肢運動が行えるようになる事を目的としたリハビリロボットで、国内外問わず多くの研究

者が展示ブースに来られ、ディスカッションを行うことができました。リハビリロボット分野で世界的に有名なマサチューセッツ工科大学のHermano Igo Krebs博士も展示ブースに来られ、自身が開発された上肢リハビリロボットであるMIT-Manusとの比較や、ロボットの使用方法や今後の発展等についてご意見を下さり、当院の宮井一郎院長代理やポスター発表をしていた畠中めぐみ医師、藤本宏明医師、共同研究者であるATRの野田智之氏と熱心にディスカッションされていたことがとても印象に残りました。

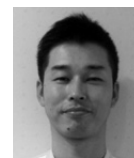
今回、参加者の皆様とのディスカッションを通して、エビデンスの構築やリハビリテーションの信頼性、妥当性の担保が重要視される中、日々臨床に携わる我々が率先して研究活動に取り組むことの重要性を改めて感じました。経験や勘に頼るのではなく、科学的根拠に基づいた作業療法が実践できるように日々の臨床に取り組んでいきたいと考えています。



Hermano Igo Krebs博士とのディスカッションの様子

発表報告

第9回 日本ボース研究会学術大会



森之宮病院
リハビリテーション部
理学療法科科长
高橋 幸治

脳卒中後遺症患者へのセラピスト介入における研究を発表

日程：2019年7月27日・28日
場所：ホテルイースト21東京

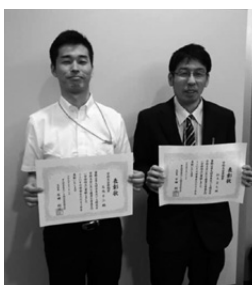
本学会のテーマは「国際化に向けて」、特別講師はオーストラリアのボバース上級指導者であるBrock先生でした。私は「脳卒中後遺症者の立ち上がり動作における動作解析、筋電計測によるリハビリテーションに関する研究」というタイトルで指定演題発表を行いました。

この研究は2016年より理化学研究所と東京大学と共同で行なっているものです。研究ではセラピストがどのような操作をしているのかを観察するために、介入中のセラピストの両上肢の筋電位を計測しました。また、患者さんの立ち上がり動作にセラピストが介入した時、介入した後の筋電位を観察し、筋シナジーを求めることで介入による効果などのような影響を及ぼしているかを解明しました。結果は、セラピストの介入が立ち上がり動作の離殿のタイミングを変化させていることが

分かりました。また、患者さんの筋シナジーの活動は遅延し、離殿のタイミングの遅れに繋がっていました。さらに、別の患者さんでは筋シナジーの長期活動につながっていました。これらに対して、セラピストの介入により筋シナジーのタイミングを整え、活性化期間を適切に短縮することができました。

質疑応答では、ボバースアプローチの効果を証明するためには、ボバースセラピスト以外の介入も計測が必要ではないか。臨床では着座動作も重要であるため是非着座動作の解析も行なって欲しい等の意見がありました。また、Kim先生は、この研究のようにボバースセラピストと科学者が共同で行なっていることを非常に賞賛され、今後も発展させてほしいとの意見を頂きました。また、介入の内容については今後相談があればアドバイスをするとさせて頂きました。

閉会式では優秀演題として表彰されました。今後も継続して我々の研究成果をリハビリテーションの発展につなげていきたいと考えています。



優秀演題の表彰を頂いた高橋科長(左)

発表報告

第19回 大阪介護老人保健
施設協会懇話会



グリーンライフ
事務サービス部主任
稲葉 泰峰

「超強化型」をめざし、追い求める姿勢で、今後に臨みたい

日程：2019年7月5日
場所：梅田スカイビル ステラホール

今回の懇話会では、「在宅支援・在宅復帰の取り組み」と題して、グリーンライフを含めた老健4施設が参加するシンポジウムが行われました。

現在、老健における算定は在宅復帰機能を段階分けて評価しており、加算の多い順に「超強化型」、「強化型」、「加算型」、「基本型」、「その他型」となっています。当施設は8月より「強化型」に移行しました。各算定段階に至るには、条件を満たす必要があります。当施設全体で取り組んだ結果、条件を達成することができました。しかし、大切なのはその段階を維持しつつ、次のステップをめざすことです。その為に、超強化型である他の3老健の取り組みが、大変参考になりました。まず「在宅復帰」に対して、他3老健は各職種が主体的な姿勢であり、やるべき課題を各自が把握し、アイデアを出し合っており、立地条件や職種の人員配置等に違いがありません。

す。ハードやソフトに恵まれているから、超強化型ではないのです。

シンポジウムでは4老健の評価項目を比較する場面があり、当施設が秀でている点もありました。しかし、自施設の利点を生かし、足りない点をどのように補足するか、その細部へのこだわりには差があるのです。「在宅復帰」はただ帰ることができれば良いというわけではありません。ご利用者の生活動作の向上、ご家族の心身の負担軽減等、サポートは多岐にわたります。各職種の連携あつてこそ「在宅復帰支援」です。めざすべき3老健の活動を、できないと決めつけず、どうすればいいのかと視点を変えて、追い求める姿勢で今後に臨みたいと思います。



他の老健の演題を聞き、刺激を受けました

発表報告

PETサマーセミナー
2019 in 福島



森之宮クリニック
診療技術部
伊藤 恵子

当クリニックのβアミロイド
PET/CT検査の手順を発表

日程：2019年8月23日～25日
場所：コラッセふくしま

PETサマーセミナーは、PET関連業務に従事する医師、診療放射線技師、看護師、薬剤師、研究者、技術者、事務職および企業等、さまざまな職種の参加者が学習・演題発表・議論をする場で毎年開催されています。今回、一般演題発表と学習の機会がありました。

厚生労働省は医療放射線による患者等の被ばく低減を図ることを目的に医療法施行規則を改正し、2020年4月より各医療機関に患者の被ばく線量の記録と管理、職員への研修を義務付ける方針としました。PET業務に従事する看護師には受診者・付添い者・職員の被ばく線量の理解が求められており、知識を深める必要性を感じました。

今後、PETの発展・応用に期待される点は、アルツハイマー型認知症診断薬（アミロイド・タウPET製剤）の保険適用、腫瘍診断薬NextFDG新PET製剤（Za18F-骨転移、18F-FACBC：前立腺癌等）の研究開発、セラノステイクス（診断と治療を組み合わせた造語）には分子イメージングが欠かせないため、68Ga、89Zr標識によるPET診断や、211At、215Ac標識によるα線による内用療法の研究開発と普及、これら3点です。

森之宮クリニックでは、物忘れ症

状を自覚し、アルツハイマー型認知症の発症を心配する方々の要望にこたえるため、2018年6月にアミロイドイメージング剤を用いた脳PET撮像施設認証の承認を取得し、βアミロイドPET/CT検査を導入しています。2018年9月から2019年8月までに計6名の検査を行いました。現在は自費自由診療のため、検査費用は高額です。今後の保険適用の動向が気になるところです。

また、連日行う検査ではないため、予約や検査の実施に統一した手順を用いて安全かつ確実な検査を行う必要があります。その内容を「当クリニックにおけるβアミロイドPET/CT検査の手順」という演題にまとめ、発表しました。質疑応答では同様の検査を導入している施設からの質問を頂き、発表後も意見を交わし有意義な時間となりました。

今回得た学びをより充実した看護ケアに生かし、受診者の満足度を高め、質の高い検査結果が得られるよう尽力したいと思っています。そして、核医学検査において被ばくしながらも看護をするのは、「PET/CTで正確な診断を得るといふ患者の利益を守るため」ということを忘れず、業務を遂行したいと思っています。

法人全体

入職医師・歯科医師のご紹介

6月にボバース記念病院の
歯科診療部に杉本有加医師、7
月には森之宮病院の泌尿器科
に高田聡医師が入職しました。
今後とも、患者さんに寄り添っ

た医療を提供できるように心
がけて参ります。受診をご希
望の際は、森之宮病院または
ボバース記念病院にお気軽に
ご相談下さい。



森之宮病院
泌尿器科
高田聡 医師



ボバース記念病院
歯科診療部
杉本有加 医師

森之宮病院

森之宮病院がNHK総合テレビ 「金のベンリ堂」に実験協力を 行いました

7月17日、NHK総合テレビ
「金のベンリ堂」に『認知症予防』
のテーマで森之宮病院の宮井
一郎院長代理が実験協力を行
いました。「金のベンリ堂」は
「健康」「食」「生活」にまつわ
る研究の中から、見ている人が
思わず試したくなるような情
報を提供する番組です。

今回の番組では、1日20分の
早歩きが認知症予防になるこ
とが紹介されました。早歩きす
ることで、脳へ酸素や栄養を運
ぶ血流が増し、脳内にBDNF

(脳由来神経栄養因子)が増え
ることで、脳の中で記憶をつ
かさどる「海馬」が大きくな
り、脳にとっても大きな影響を
与えると考えられます。

番組の中では、森之宮病院
にてウォーキングマシンと
NIRS(様々な場面におけ
る脳の活動を微弱な近赤外線
を用いて可視化する装置)を
使い、早歩き中の脳血流測定
を行いました。その結果、早歩
きをすることで障害物をよけ
ようと注意を払い、認知機能



NIRSを頭に装着し、実際に測定している
場面が放送されました

をつかさどる部分の血流が増
えていることが実証されまし
た。

森之宮病院

脳卒中教室を月に 2回開催しています

脳卒中教室は、入院中の患者さんやご家族を対象
として「脳卒中の再発予防のための生活」や「退院後
の過ごし方」等について、医師や歯科医師、歯科衛生
士、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業
療法士、言語聴覚士、医療ソーシャルワーカーといっ
た多職種で開催しています。月に2回、10名から15
名程度が参加され、すでに開催は50回を超えて、約
400名の方々にご参加頂きました。

脳卒中は再発しやすい病気ですが、再発予防には
生活習慣の見直しや正しい服薬習慣が大切です。ま
た、様々なサービスの利用や生活の工夫が「やりた
いを叶える」ことにもつながります。少しでもその
助けになれるよう、これからも頑張っていけます。
(森之宮病院看護部5階東棟科長 中島ゆかり)



脳卒中教室の様子

脳卒中教室 参加カード		
●	8/1	生活習慣と栄養について
●	8/27	お薬について
	9/5	お家で安全に 過ごすための工夫
	9/24	誤嚥性肺炎を防ぐために できる5つのこと
	10/3	運動機能を 維持するための4か条
	10/22	お口のケアについて
	11/7	退院後のくらしに備える ～社会資源の活用～

脳卒中教室に参加された方に
お渡ししている参加者カード

第5回脳性麻痺治療セミナーを開催しました

私達は、ボバース記念病院で20年以上続けてきた「医師のための脳性麻痺講習会」を発展させ、2014年から森之宮病院で医師とセラピストの連携を深めるための脳性麻痺治療セミナーを行ってきました。昨年は病院移転のために小規模のセミナーのみとなりましたが、今年は新たなボバース記念病院のお披露目も兼ねて2日間のプログラムで再出発しました。

参加者は25名と以前に比べて少なめでしたが、北海道から鹿児島まで全国から来られ、熱い討論が交わされました。今年は新たな試みとして、一般の方を対象にした脳性まひ講演会にも参加して頂き、患者さん・ご家族とのつながり方についてともに学びました。講師として神戸学院大学から加藤雅子先生を招き、QOLの大切さについて講演して頂きました。小児部門移転後初のセミナーでまだ発展途



熱心に聴講されている参加者の皆様

上ではあるものの、延べ31人ものスタッフが協力し、滞りなく運営できました。セミナーを通じて脳性麻痺診療の発展・普及にご協力頂いた患者さん・ご家族にあつくお礼申し上げます。

(ボバース記念病院院長 荒井洋)



森之宮病院 登録医 紹介

31



医療法人 京進会
整形外科きょうたに
クリニック

京谷 正人 医師

〒536-0013

大阪市城東区鳴野東3-4-18 1階

06-6967-3000

整形外科、リハビリテーション科、
リウマチ科

京谷理事長は、平成7年に徳島大学医学部医学科で卒業後、大阪大学医学部整形外科教室に入局。姫路赤十字病院、NTT西日本大阪病院等での勤務を経て、平成24年9月に医療法人 京進会 整形外科きょうたにクリニックを開院されました。診察のモットーは、「できるだけ説明し、納得して頂くこと」です。開業当初は投薬・リハビリテーションを中心に診察を行っておられましたが、5年前より運動器リハビリテーション・エコーガイド下で行うfasciaハイドロリリース(旧筋膜リリース)にも力を入れておられます。新たな治療を取り入れたことで以前よりもさらに患者さんとの信頼関係も深まったと実感されています。

「患者さんのニーズに対応するため、他院の医師と情報を共有して常に時代を先取りした医療を行えるように努力し続けています。院内のスタッフにも常に高いレベルを求めており、学会や勉強会に積極的に行くよう指導しています。」熱心な治療が評価され、治療を受けた患者さんのご家族が和泉市や堺市等の遠方から受診してくれたこともあるそうです。勉強熱心な京谷理事長の趣味はスポーツ観戦で、お休みの日はお子さんとJリーグの試合を見に行かれリフレッシュされています。

最後に森之宮病院へ一言。「入院・検査が必要な患者さんへの迅速な対応に今後も期待しています。」

(森之宮病院診療部地域医療連携室 戸田梨香子)

■ 森之宮病院で下肢静脈瘤治療が始まりました

森之宮病院循環器内科は、動脈硬化性疾患に対する診療を中心に行ってききましたが、8月より下肢静脈瘤に対する診療も開始しました。下肢静脈瘤は、静脈の老化現象の一つと言われ、立ち仕事の多い人や妊娠・出産後などが原因の一つとして考えられています。主な症状は、「皮膚表面の静脈の怒張」、「こむらえり」、「だるさ」、「むくみ」、「潰瘍や皮膚炎」があげられます。

静脈弁(静脈の血管壁にある弁)は、立っている時に血液が足の方に戻ってしまうのを防いでいます。この弁が壊れると、血液が逆流してその下にある静脈に血液が溜まり、徐々に静脈の壁がひき延ばされ、太くなった静脈がへビのようにグネグネと曲がりくねった状態を「下肢静脈瘤」といいます。

下肢静脈瘤の手術には、血管をしぼる「高位結紮術」と、血管を引き抜く「ストリッピング手術」もありますが、当院では、カテーテルによるレーザー治療を第一選択としています。是非この機会に足の変化が気になる方は森之宮病院循環器内科へご相談下さい。

(森之宮病院 診療部循環器内科部長 川崎大三)



川崎医師率いるチーム医療で
診断・治療を行っています

■ ボバース記念病院のホスピタルアートが完成しました

8月20日に、ボバース記念病院3階渡り廊下のホスピタルアートの完成式が行われました。完成式では荒井院長が仕上げの作業を行い、約8カ月の期間を要したプロジェクトは完成しました。

手術室につながる廊下が、薄暗く怖い感じがするとのご意見を頂き、ボランティアの方を中心に、小児整形外科の奥野先生や田中看護部長をはじめ、多くの職員が業務後や休日にプロジェクトに参加しました。また、当院入院中のお子さん達も参加して下さいました。西面は海、東面は森の絵が描かれ、渡り廊下は明るく楽しい雰囲気となりました。ボバース記念病院に来られた際はホスピタルアートを一度見学に来て下さい。

(ボバース記念病院事務部フロントサービス課主任 坂本朋浩)



西面には海の生き物、東面には
キリンやウサギ等のかわいい動物
達がたくさん描かれています

■ ご寄付・ご寄贈を頂きました

福田康巳様(大阪市城東区)よりご寄付・ご寄贈を頂きました。ありがとうございます。有意義に活用させて頂きます。

■ 編集後記

4月から社会人となり、広報という業務に携わる中で様々な文章に触れる機会が増えました。学生の頃は秋といえば「食欲の秋」を楽しみにしていましたが、少しでも多くの文章の書き方に慣れる為、今年は「読書の秋」にしたいと思います。

(本部管理部人事課 中西日菜子)

Live30【ライブ・サーター】
2019年 秋号
vol.233

編集発行人／社会医療法人大道会
〒536-0023 大阪市城東区東中浜1-5-1
TEL.06(6962)9621
FAX.06(6963)2233

●本法人の経営理念
1. 社会から信頼される病院・施設づくり
2. 安定した経営基盤の確立
3. 職員の福祉向上と人材育成

●職員行動モットー
親切丁寧に(受診者・お客様・ご利用者)
待たさない／よく説明する／連携する

■ 社会医療法人大道会

社会医療法人大道会本部

☎06(6962)9621

森之宮病院

☎06(6969)0111

ボバース記念病院

☎06(6962)3131

森之宮クリニック(PET 画像診断センター)

☎06(6981)9600

帝国ホテルクリニック(人間ドック)

☎06(6881)4000

大道クリニック(人工透析)

☎06(6961)5151

介護老人保健施設グリーンライフ

☎06(6965)0666

訪問看護ステーションおおみち

☎06(6967)1123

訪問看護ステーション東成おおみち

☎06(6977)8680

ケアプランセンターおおみち

☎06(6964)5285

レンタルケアおおみち

☎06(6967)6250

■ 社会福祉法人山手学園

特別養護老人ホームサンローズオオサカ

☎06(6974)7388

東成山手学園(保育園)

☎06(6974)7377